



～ 夢ひとすじに ～

第 6 号

平成 24 年 10 月 1 日

宮原中だより

さいたま市立宮原中学校

メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

自ら学び 心豊かに たくましく

待つ姿勢・・・

校長 山下 誠二

9月27日から、さいたま市新人体育大会が開催されています。2年生を中心とした新チームの頑張りに期待したいと思います。

さて、自分のことで恐縮ですが、私は九州・熊本県の最南端の山奥、人吉市で生まれました。小学校1年生のとき、家庭訪問で担任の恒松先生と母親の会話を今でも良く覚えています。母親の第一声は、「この子はちゃんと鉛筆が握れているのでしょうか？」と質問しました。恒松先生は、「今はできていませんが、もう少し待ってみましょう。必ずきちんと握れるようになりますから大丈夫ですよ」と笑顔で話してくれました。母親は、先生の一言に随分安心したような感じでした。以前、生徒には話をしましたが、私の右手の人差し指は、5歳の頃、門柱が倒れて下敷きになり、そのときの怪我で一関節分くらい短く、人差し指と中指の間は、全面を縫った影響で引きつり、水かきのようになっています。怪我後、何度かの整形手術を受け、最初は直角に曲がっていた指も徐々にまっすぐに伸びるようになってきましたが、鉛筆が持てるようになるまでには、随分時間がかかりました。鉛筆はもちろんですが、ボール投げなど、当然のことながらまっすぐ投げられませんでした。そして、右手を人前に出すのが嫌で嫌で、「この変形した指を誰かに見られると恥ずかしい」と常に考えていました。しかし、それを救ってくれたのは、学校の先生でした。運動が苦手な私に、水泳という種目を教えてくれました。水泳は、指が多少短くても、そんなに影響はありません。小学4年生から大学卒業まで、スイミングスクールには通わず、全て学校のクラブで練習しました。オリンピックまでは行けませんでした。本当に小学校の先生には感謝しています。

なぜ、このような話を持ち出したかと言うと、恒松先生の「待つ姿勢」が、母親と私自身を大きく変えてくれたように思います。先生の一言で、母親もあせらず見守ってくれていたように思います。子育てでよく言われる「待つ」ということ。これは何を待つのかと言われれば、子どもの可能性がゆっくりと立ち上がってくるのを待つと言いかえてもよいのではないのでしょうか。それが、子育ての「待つ」ということだと思います。子どもたちは、日々の暮らしの中で「急かされる」状況が大変多いと感じます。『子どもを励ましながら待つ姿勢』『勇気付けしながら待つ接し方』を実践してあげることがとても大切だと思います。競争社会の中で、「待つ」と言うことは大変なことかもしれません。しかし、子どもを大きく成長させるには、保護者も教師もちょっとした「待つ姿勢」が必要だと思う今日この頃です。



文化発表会 吹奏楽部の演奏より

さいたま市中学校新人体育大会始まる

9月27日の陸上部の大会を皮切りに、代が替わって初めての公式戦がスタートしています。そこで、26日(水)に生徒会本部や3年生の部長会を中心となり、壮行会が行われました。新部長が大会に向けての抱負や意気込みを発表してくれました。最後は、生徒会長からの一本締めで、全部活動の健闘を願い、気持ちを一つにしました。



文化発表会 9月21日(金) 5, 6校時

吹奏楽部や合唱部の演奏、英語弁論、交際交流事業派遣報告会、有志の発表など、どれもすばらしいものばかりでした。宮原中学校の文化的な活動の質の高さを感じとれる見事な発表でした。



文化部作品展示発表会 9月1日(土)~7日(金)

文化部の作品展示発表会を、北校舎1階多目的室で行いました。美術部・華道部・家政部・文芸部・科学部の作品が展示されました。ていねいな完成度の高い作品ばかりでした。来室された方々は、熱心に鑑賞されておられました。



発明創意くふう展作品展示 9月21日(金)~28日(金)

多目的室において、宮原中生の考え、製作してきた作品の展示会をしました。その中でも優秀な作品が大宮情報文化センター(ジャック大宮)で29、30日に展示されました。どの作品も色々と考えられており、大変工夫され、アイデアに富んだ展示会となりました。



1年生 未来くるワーク体験

9月11日(火)から3日間、1年生は、職場体験事業「未来くるワーク体験」を実施しました。実際に事業所で「働く」を体験し、様々な事を学ぶことができました。事業所の皆様、学校では得られない貴重な体験の機会をくださり、誠にありがとうございました。



衣替え移行期間

10月5日(金)までは、衣替えの移行期間となっております。移行期間は夏服、冬服どちらでも構いません。10月9日(火)からは完全実施となります。正しい服装の再確認をください。服装の乱れは心の乱れとも言われます。ネクタイ・リボン、名札の着用、スカート丈、シャツ出し、上履きのかかとを踏まないことにも注意してください。

給食費等口座振替のお知らせ

10月の給食費・教材費等の口座振替日は、10日(水)です。ご協力のほどお願いします。

「いのちの支え合いを学ぶ授業」

この授業は、自他の生命がかけがえのない大切なものと深く自覚し、生命を大切にできる生徒を育成するものです。全学年、全クラスで、いのちの支え合いを学ぶ授業をしていきます。市議会議員の3名の方が、この宮原中の授業に関心を寄せられ、28日(金)に授業見学にもおいでになりました。



いよいよ「合唱コンクール」

10月27日(土)、市民会館おおみやでの合唱コンクールが近づいてきました。昨年は残念ながら台風の影響で市民会館おおみやでの実施はできませんでした。これから各クラスや学年で、当日に向けての練習が本格化してきます。詳しい時間等は追って通知いたします。是非、保護者・地域の皆様、鑑賞においでください。

P T A 高校見学会実施 9月14日(金)

私立浦和学院高校と市立大宮北高校の見学会に行ってきました。教育課程の説明や普段見ることのできない教育設備などの見学ができました。



2年生総合的な学習の時間発表会

「福祉について」調べ学習を行い、生徒一人ひとり、モニターを利用し発表会を行いました。「点字はどこの国から始まったのですか?」「国によって違うのですか?」などの質問も出され、福祉に対する関心が高まった授業でした。



10月の行事予定

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1日(月) 新人体育大会(～5日) 4時間授業 給食なし 卒業アルバム撮影 | 17日(水) 部活動連絡協議会18:00 授業順変更 |
| 2日(火) 4時間授業 給食なし | 18日(木) 第3回あいさつ運動 |
| 5日(金) 1年生読み聞かせ | 19日(金) 2学期中間テスト 合唱練習 安全点検日 食育の日 |
| 7日(日) 宮原地区大運動会(予備日8日) | 20日(土) 宮原公民館文化祭(展示)～21日(日) |
| 10日(水) 卒業アルバム撮影 | 23日(火) 朝礼(壮行会) 金曜日授業 ノーテレビノーゲームデー |
| 11日(木) 朝礼 駅伝試走会 PTA運営委員会 卒業アルバム撮影 | 24日(水) 市中学校駅伝競走大会(荒川総合) 予備日25日(木) |
| 12日(金) 地域防災訓練(17:00～21:00) 2年生読み聞かせ | 26日(金) 3年生進路学習会 3年生読み聞かせ 3年PTA学年委員会 |
| 13日(土) 夢チャレンジスクール宮原 宮原公民館文化祭(演技) | 27日(土) 合唱コンクール(市民会館おおみや) 弁当持参 |
| 14日(日) テスト前部活動停止 宮原公民館文化祭(演技) | 31日(水) 3年生プラネタリウム教室 1年生給食試食会 |
| 16日(火) 生徒会専門委員会 学校保健委員会15:40 合唱コンリハ授業順変更 PTA美化活動 | |

9月の安全点検の結果、異常は認められませんでした。

さいたま市立宮原中学校携帯電話サイト <http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/i/>
 本校は、携帯電話サイトで学校行事案内や緊急情報等を提供しています。

10月15日から完全下校時刻は17:30です。



宮原中花だより 昨年から、PTAの活動で、本校東側フェンス沿い(角上魚類側)に、花を植えていただいております。昨年度のこの時期は、パンジーを植栽していただきました。パンジーの花言葉は「物思い」「思慮深い」「心の平和」「思想」です。フランス語の「パンセ:物思い」が名前の由来です。さいたま市の目指す子ども像の中の1つに、「クリティカル・シンキングのできる子ども」があります。自分の頭を通してものを言う、一度は疑ってみる、自分の体験と照らして追求する思考法です。



～ 夢ひとすじに ～

宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

第 6 号

平成 24 年 10 月 1 日

さいたま市立宮原中学校

メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

待つ姿勢・・・

校長 山下 誠二

9月27日から、さいたま市新人体育大会が開催されています。2年生を中心とした新チームの頑張りに期待したいと思います。

さて、自分のことで恐縮ですが、私は九州・熊本県の最南端の山奥、人吉市で生まれました。小学校1年生のとき、家庭訪問で担任の恒松先生と母親の会話を今でも良く覚えています。母親の第一声は、「この子はちゃんと鉛筆が握れているのでしょうか?」と質問しました。恒松先生は、「今はできていませんが、もう少し待ってみましょう。必ずきちんと握れるようになりますから大丈夫ですよ」と笑顔で話してくれました。母親は、先生の一言に随分安心したような感じでした。以前、生徒には話をしましたが、私の右手の人差し指は、5歳の頃、門柱が倒れて下敷きになり、そのときの大怪我で一関節分くらい短く、人差し指と中指の間は、全面を縫った影響で引きつり、水かきのようになっています。怪我後、何度かの整形手術を受け、最初は直角に曲がっていた指も徐々にまっすぐに伸びるようになってきましたが、鉛筆が持てるようになるまでには、随分時間がかかりました。鉛筆はもちろんですが、ボール投げなど、当然のことながらまっすぐ投げられませんでした。そして、右手を人前に出すのが嫌で嫌で、「この変形した指を誰かに見られると恥ずかしい」と常に考えていました。しかし、それを救ってくれたのは、学校の先生でした。運動が苦手な私に、水泳という種目を教えてくれました。水泳は、指が多少短くても、そんなに影響はありません。小学4年生から大学卒業まで、スイミングスクールには通わず、全て学校のクラブで練習しました。オリンピックまでは行けませんでした。本当に小学校の先生には感謝しています。

なぜ、このような話を持ち出したかと言うと、恒松先生の「待つ姿勢」が、母親と私自身を大きく変えてくれたように思います。先生の一言で、母親もあせらず見守ってくれていたように思います。子育てでよく言われる「待つ」ということ。これは何を待つのかと言われれば、子どもの可能性がゆっくりと立ち上がってくるのを待つと言いかえてもよいのではないのでしょうか。それが、子育ての「待つ」ということだと思います。子どもたちは、日々の暮らしの中で「急かされる」状況が大変多いと感じます。『子どもを励ましながらかつ姿勢』『勇気付けしながら待つ接し方』を実践してあげることがとても大切だと思います。競争社会の中で、「待つ」と言うことは大変なことかもしれません。しかし、子どもを大きく成長させるには、保護者も教師もちょっとした「待つ姿勢」が必要だと思う今日この頃です。



文化発表会 吹奏楽部の演奏より